

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	坂本 友里 【ライフサイエンス専攻 平成25年度生】	<p>肥満者におけるインスリン抵抗性や2型糖尿病の発症には、脂肪組織における慢性炎症が深く関わっており、その慢性炎症には様々なサイトカインが関与していることが知られている。学位申請者は大豆イソフラボンの主成分であるdaidzeinに着目し、学位論文研究において、肥満状態におけるdaidzeinの抗炎症作用について培養細胞を用い、その詳細な分子メカニズムを検討した。この結果、daidzeinは転写因子PPAR<math>\gamma</math>を介してアディポカインの発現を制御することで、脂肪細胞における肥満誘導性炎症を改善することを明らかにした。さらに脂肪細胞とマクロファージの相互作用においてdaidzeinは、MCP-1やIL-6などの炎症性サイトカインの発現および分泌を抑制すること、さらに、そのメカニズムの一端として転写因子PPAR<math>\alpha</math>の活性化や、炎症性シグナル経路に関わるJNKの活性化阻害作用が関与していることを明らかとした。本研究の内容はすでに国際誌に発表済みである（<i>Molecular Nutrition and Food Research</i> 58:718-26, 2014., <i>PLOS ONE</i>, 2016 in press）。</p> <p>本論文は、肥満による合併症の制御のための食について貴重な情報を提供するものであり、学位論文として十分な内容と水準を備えていると判断した。第一回、第二回審査会では論文内容の審議がなされ、口頭試問を行なうことを可と判断した。第三回審査会では申請者の出席のもと口頭試問がなされ、申請者は質疑に対して適切に回答し、後日加筆修正を行なった訂正論文を提出した。以上の審査の過程をふまえて行なわれた公開発表（1月27日）においても、審査員からの質疑に対して的確な対応がなされ、最終試験も合格と判断した。よって、審査委員会は本論文を本学人間文化創成科学研究科の、博士（生活科学）、Ph.D. in Nutritional Biochemistry の学位を授与するに相当する論文とである判断した。</p>
論文題目	大豆イソフラボンの肥満誘導性炎症制御メカニズムの検討	
審査委員	(主査) 准教授 飯田 薫子	
	教授 鈴木 恵美子	
	教授 森光 康次郎	
	教授 本田 善一郎	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. <input checked="" type="radio"/> 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

